

『溶接甲子園』で優秀賞獲得

県央工業高校3年 機械加工科 家坂繁樹さん(17歳)

全国予選勝ち抜いた19人出場

“選外”の昨年の雪辱晴らす

前向き努力が結果に



全国大会で二位に入った県央工業三年の家坂繁樹さん

第三回全国選抜高校生溶接技術競技会「溶接甲子園」が三日、愛媛県新居浜市で開かれ、県立新潟県央工業機械加工科三年、家坂繁樹さん(一七)長岡市は二位にあたる優秀賞を獲得した。賞に入らず順位がつかなかった昨年の雪辱を晴らし、「練習以上か、それと同じくらい力が出せた」と、県勢初の入賞を喜んでいる。

アーク溶接のコンテス全国九つのブロック予選の軟鋼板二枚を二十分トで、業界団体などによる勝ち抜いた十九人が出の制限時間内で溶接し、実行委員会が主催。場した。

家坂さんが臨んだ「被」競技では縦百二十五のでき栄えを見た。鋼板覆アーク溶接部門には、横百五十、厚九は斜めにカットされた側



アーク溶接を表演する家坂さん

面同士を合わせ、複数層百アンペア、二層は二のビードを円弧状に盛百アンペア、最終の三層の手法はあるていど自層は百九十アンペアに落ちた。三層で仕上げた家坂さんに流れないよう工夫。練

得点は八十七満点で七十九点。審査で最大五点が加わる表面の仕上がりの、県央工業勢で初の全項目が四点にとどまっ国の舞台に進んだ。

経験不足から入賞、そ



学校で保管している練習の成果

一本勝負は「リラック」で、ほぼ一〇〇%の力が出せたこと振返る。会場に並んだ全出場者の作品を見て「甲乙つけがたかった」といっ。

機会は一回だけだ。今期は県大会で首席、家坂さんはものづくりの続く東甲信越は首位にへのがれから県央工一点差の二位に入り、二業に入り、一年の夏、機度目の全国で念願の入械工作部の活動で初めて賞。顧問の風間忠樹教諭溶接に触れた。その年のは何でも前向きに努力県大会で二位、翌年の関する。それが結果に結び東甲信越では三位に入付いた」とたえる。



一枚の鋼板を合わせてビードを盛る、

進路は就職を希望し、溶接にかかわりたいと考えている。「機械に頼らず、ロボットに負けな

くらしいの技術を極めたい」。飽くまで挑戦が続く。